



バックアップと復元

いつでも手動でバックアップできます。すべてのファブリック設定とインテントを自動または手動でバックアップするようにスケジューラを設定することもできます。

次のいずれかの形式を使用してバックアップおよび復元できます。

- **設定のみ**：設定のみのバックアップの方が小さくなります。これにはインテント、依存データ、検出情報、ログイン情報、およびポリシーが含まれています。このバックアップからの復元には、機能するファブリック、スイッチの検出、予期される設定、およびその他の設定が含まれています。
- **完全**：フルバックアップは大規模です。これには、現在のデータ、履歴データ、アラーム、ホスト情報、および設定のみのバックアップのすべてが含まれます。このバックアップからの復元には、機能的な履歴レポート、メトリックグラフ、およびすべての基本機能があります。

構成のみのバックアップまたは完全バックアップを復元できます。

バックアップを復元するときは、設定のみの復元または完全な復元を選択できます。設定のみの復元では、設定（インテント、検出情報、ログイン情報、ポリシー）のみが復元され、設定のみのバックアップと完全バックアップの両方を使用して実行できます。完全な復元は、設定と、現在および過去のデータ、チャートなどを復元し、完全バックアップのみを使用して実行できます。



- (注) 新規インストール後、バックアップデータを復元する前に、最低 20 分間待機してください。新しくインストールしたセットアップでバックアップをすぐに復元すると、一部のアプリケーションが動作しない場合があります。

アップグレード後の機能の互換性

次の表に、NDFC、リリース 12.1.1e へのアップグレード後に DCNM 11.5(x) バックアップから復元される機能に関連する警告を示します。



(注) 11.5(x)には、リリース 11.5(1)、11.5(2)、のみが含まれます。11.5(4)から 12.1.1e へのアップグレードはサポートされていません。

DCNM 11.5(x) の機能	アップグレードのサポート
vCenter による VMM の可視性	サポート対象
設定されたプレビュー フィーチャー	サポート対象外
IPv6 で検出されたスイッチ	サポート対象外
DCNM トラッカー	サポート対象外
ファブリックのバックアップ	未サポート
レポート定義とレポート	未サポート
スイッチのイメージとイメージ管理ポリシー	サポート対象外
イメージ/イメージ管理データの切り替え	11.5(x) から 12.1.1e に引き継がれない
アラーム ポリシーの設定	11.5(x) から 12.1.1e に引き継がれない
パフォーマンス管理データ	アップグレード後、最大 90 日間の CPU/メモリ/インターフェイス統計情報が復元されます。

このセクションの内容は次のとおりです。

- [スケジューラ \(2 ページ\)](#)
- [Restore \(復元\) \(3 ページ\)](#)
- [今すぐバックアップ \(5 ページ\)](#)

スケジューラ

スケジューラの目的は、システムを復元する必要がある場合にシステムのバックアップを取ることです。リモートロケーションにバックアップする必要があります。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web UI からアプリケーションおよび設定データのバックアップをスケジュールするには、次の手順を実行します。

始める前に

スケジュールされたバックアップジョブがない場合は、**[スケジュールが設定されていません (No Schedule set)]** が表示されます。

手順

-
- ステップ1 [スケジュール設定なし (No Schedule set)] をクリックします。
[Scheduler (スケジューラ)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2 [スケジュールされたバックアップの有効化 (Enable Scheduled backups)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ3 [種類 (Type)] で、復元する形式を選択します。
• [構成のみ (Config only)] または [完全 (Full)] を選択します。
- ステップ4 [SCP サーバ (SCP Server)] フィールドに、SCP サーバの IP アドレスを入力します。
- ステップ5 [ファイルパス (File Path)] フィールドに、バックアップ ファイルを保存するディレクトリの絶対パスを入力します。
- ステップ6 バックアップディレクトリにユーザー名とパスワードを入力します。
- ステップ7 バックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。
バックアップから復元するには、暗号化キーが必要です。暗号化キーは、機密情報を含むバックアップファイルの一部を暗号化するために使用されます。
- ステップ8 [日単位で実行 (Run on days)] フィールドで、チェックボックスをオンにして、1 日以上のバックアップジョブをスケジュールします。
- ステップ9 [開始時刻 (Start at)] フィールドで、タイムピッカーを使用して特定の時刻にバックアップをスケジュールします。
タイムピッカーは 12 時間制です。
- ステップ10 [バックアップのスケジュール (Schedule backup)] をクリックして、スケジュールに従ってバックアップジョブを実行します。
-

Restore (復元)



-
- (注) 新規インストール後、バックアップデータを復元する前に、最低 20 分間待機してください。新しくインストールしたセットアップでバックアップをすぐに復元すると、一部のアプリケーションが動作しない場合があります。
-

ガイドライン

機能が有効になっていない、新しくインストールされた Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ でのみ復元を実行できます。

L2 HA から L3 HA に移行する場合は、[外部サービス IP 構成を無視する (Ignore External Service IP Configuration)] チェックボックスをオンにして、バックアップ内の永続的な IP が無視され、復元中に新しい IP が選択されるようにします。残りのデータは復元されます。



(注) 災害復旧時に NDFC を使用した場合、バックアップが作成されたのと同じバージョンでのみ復元できます。

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web UI からアプリケーションおよび構成データを復元するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [復元 (Restore)] をクリックします。

[今すぐ復元 (Restore now)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [種類 (Type)] で、復元する形式を選択します。

- [構成のみ (Config only)] または [完全 (Full)] を選択します。

ステップ 3 バックアップ ファイルを保存した適切な宛先を選択します。

- ファイルがローカル ディレクトリに保存されている場合は、[ファイルのアップロード (Upload File)] を選択します。

1. バックアップ ファイルが保存されるディレクトリ
2. バックアップ ファイルを [今すぐ復元 (Restore now)] ウィンドウにドラッグアンドドロップします。

または

[Browse] をクリックします。バックアップ ファイルが保存されるディレクトリに移動します。バックアップ ファイルを選択して、[開く (Open)] をクリックします。

3. バックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

(注) バックアップを復元するには、暗号化キーが必要です。暗号化キーは、機密情報を含むバックアップファイルの一部を暗号化するために使用されます。

- バックアップ ファイルがリモート ディレクトリに保存されている場合は、[SCP からインポート (Import from SCP)] を選択します。

1. [SCP サーバ (SCP Server)] フィールドに、SCP サーバの IP アドレスを入力します。
2. [ファイルパス (File Path)] フィールドに、バックアップ ファイルへの相対ファイルパスを入力します。
3. ユーザ名とパスワードを該当するフィールドに入力します。

4. [暗号キー (Encryption Key)] フィールドにバックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

(注) バックアップを復元するには、暗号化キーが必要です。暗号化キーは、機密情報を含むバックアップファイルの一部を暗号化するために使用されます。

- ステップ 4 (オプション) [外部サービスの IP 設定を無視する (Ignore External Service IP Configuration)] チェックボックスをオンにします。

[外部サービスの IP 設定を無視する (Ignore External Service IP Configuration)] チェックボックスがオンになっている場合、外部サービスの IP 設定は無視されます。この選択により、システムでバックアップを作成し、それを別の管理サブネットやデータサブネットを持つ別のシステムに復元することができます。

このオプションは、Cisco DCNM 11.5(x) から Cisco NDFC へのアップグレード中には影響しません。

- ステップ 5 [復元 (Restore)] をクリックします。

バックアップ ファイルが [バックアップと復元 (Backup & Restore)] ウィンドウの表に表示されます。復元に必要な時間は、バックアップ ファイルのデータによって異なります。

今すぐバックアップ

Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ Web UI からアプリケーションおよび設定データのバックアップを取得するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [今すぐバックアップ (Backup Now)] をクリックします。

- ステップ 2 [種類 (Type)] で、復元する形式を選択します。

- [構成のみ (Config only)] または [完全 (Full)] を選択します。

- ステップ 3 バックアップ ファイルを保存する適切な宛先を選択します。

- ローカル ディレクトリにバックアップを保存するには、[ローカル ダウンロード (Local Download)] を選択します。

1. バックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

(注) バックアップを復元するには、暗号化キーが必要です。暗号化キーは、機密情報を含むバックアップファイルの一部を暗号化するために使用されます。

2. [バックアップ (Backup)] をクリックします。

バックアップが完了すると、[バックアップと復元 (Backup & Restore)] 画面からバックアップファイルをダウンロードできます。

3. [アクション (Actions)] 列で、[ダウンロード (Download)] アイコンをクリックして、バックアップをローカル ディレクトリに保存できます。

バックアップを削除するには、[削除 (Delete)] アイコンをクリックします。

(注) 割り当てられたディスク容量が限られているため、[ローカルダウンロード (Local Download)] オプションで取得したバックアップはできるだけ早く削除する必要があります。

- [SCP へのエクスポート (Export to SCP)] を選択して、バックアップ ファイルをリモート ディレクトリに保存します。

1. [SCP サーバ (SCP Server)] フィールドに、SCP サーバの IP アドレスを入力します。
2. [ファイルパス (File Path)] フィールドに、バックアップ ファイルへの相対ファイルパスを入力します。
3. ユーザ名とパスワードを該当するフィールドに入力します。
4. [暗号キー (Encryption Key)] フィールドにバックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

(注) バックアップを復元するには、暗号化キーが必要です。暗号化キーは、機密情報を含むバックアップファイルの一部を暗号化するために使用されます。

5. [バックアップ (Backup)] をクリックします。

バックアップが完了すると、バックアップ ファイルがリモート ディレクトリに保存されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。